

## 平成24年度事業報告

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

### I. 事業の概況

当財団設立（平成18年）後6年目の事業活動となる今年度は、平成23年度に策定した「事業の更なる質向上」と「新たな価値づくり（社会的価値）」を基調とする向こう5年間の中期事業方針に基づき、スポーツチャレンジ助成事業、スポーツ振興支援事業、スポーツ文化・啓発事業の各分野において、社会ニーズを踏まえた諸施策の導入や改善を実施しつつ、年間を通して概ね計画通り運営することができました。

### II. 事業別の状況

#### (公1) 助成金事業

(スポーツチャレンジ研究・スポーツチャレンジ体験 助成事業)

スポーツにかかわる学問研究活動に対し助成する「スポーツチャレンジ研究助成」及び技能・体力の向上、体験等を目的とした取り組みに対し助成する「スポーツチャレンジ体験助成」を実施しています。

○今年度は、第6期生として体験助成10名、研究助成12名、計22名に助成しました。

助成対象者は、期中における四半期毎の報告書の提出と中間報告会への参加。また、1年間のチャレンジ成果を発表する成果報告会に参加しました。中間報告会は9月から11月に計7回開催し、成果報告会及び修了式は、平成25年3月15日から17日（3日間）に開催した第6回スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングにて行いました。

○助成対象者（OB・OGを含む）の中でロンドンオリンピック（3名）、パラリンピック（5名）に出場する選手の激励会を7月に開催し、特別チャレンジャー賞を贈呈すると共に、3月には顕著な業績を上げた研究助成対象者2名に特別チャレンジャー賞を贈呈しました。

○第7期助成対象者の募集は、9月1日から11月15日まで行い、体験44件、研究68件の応募の中から、平成25年1月21日及び22日の最終審査を経て、体験助成8名、研究助成12名を決定すると共に、今年度から新たに導入した継続助成では、体験10件、研究5件の中から最終審査を経て、体験助成3名、研究助成1名を決定し、助成金の贈呈式を、第6回スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティング初日の3月15日に行いました。

○助成対象者のチャレンジを支援すると共に、スポーツにかかわる人たちの人間的な成長をも促進することを目的に、中間報告会や成果報告会では異分野交流による相互刺激の機会の設定。「語り」「学び」「考える」をコンセプトとしたスポーツ討論会や講演会の開催など参加者にとってのさまざまな気づきの機会を提供してきました。また、スポーツにかかわる人たちの取り組みの参考情報、及びスポーツへの理解促進を図るため、上記概要などをホームページ等に掲載し、より広く社会に情報発信してきました。

## (公2) 奨学金事業

(海外留学生奨学金・外国人留学生奨学金 給与事業)

スポーツにかかわる学問研究を目的とした留学生に奨学金を給与する「海外留学生奨学金」及び「外国人留学生奨学金」を実施しています。

○今年度は、第5期海外留学生1名、外国人留学生2名、及び第6期として海外留学生2名、外国人留学生2名に奨学金を給与しました。奨学生は、期中における四半期毎の報告書の提出と中間報告会への参加。また、1年間のチャレンジ成果を発表する成果報告会に参加しました。成果報告会及び修了式は、平成25年3月15日から17日(3日間)に開催した第6回スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングにて行いました。

○第7期奨学生の募集は、9月1日から11月15日まで行い、海外留学生6件、外国人留学生16件の応募の中から、平成25年1月21日及び22日の最終審査を経て、海外留学生2名、外国人留学生1名を決定し、奨学金の贈呈式を、第6回スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティング初日の3月15日に行いました。

## (公3) 表彰事業

(スポーツチャレンジ賞 表彰)

スポーツチャレンジ賞は、スポーツ振興において多大なる実績を残すとともに、その功績によって社会の活性化に貢献した人物・団体を表彰するもので、受賞者のたゆまぬ努力と成果に敬意を表するものです。競技、指導、研究、普及、ジャーナリズムなどスポーツに関する幅広い分野において、高く評価されるのに相応しい功績をあげられ、且つこれまで注目を浴びることの少なかった「縁の下の力持ち」的な人物・団体にスポットライトをあてています。また、本賞では、チャレンジスピリットあふれる受賞者のプロセスやその実像を通して、挑戦(チャレンジ)することの尊さ、大切さや「努力は報われる」ことが社会に浸透していくことを願っています。

○9月22日から11月15日の間に、競技団体・大学・報道機関等から候補者の推薦を受け、当財団に設置した有識者、専門家による選考委員会(2回)を経て、以下の対象者を決定しました。

(1) 国際的な信頼と幅広いネットワークを活かし、日本フィギュアスケートの「開国」に貢献  
フィギュアスケートコーチ、振付師、解説者 樋口 豊氏

(2) 「楽しいリハビリスポーツ」の普及をめざした日本女子ゴールボールチーム金メダルへの  
挑戦 ゴールボール女子日本代表 ヘッドコーチ 江黒 直樹氏

○従来、3月のスポーツ・チャレンジャーズ・ミーティング(静岡県掛川市)にて開催していた表彰式は、受賞者の功績をより広く社会に発信する機会と位置づけ、東京会場に移し、4月9日東京會館にて受賞者、推薦者、応援者、報道機関、審査委員、理事等関係者75名の出席の下に開催しました。(表彰式は平成25年度事業)

#### (公4) 青少年健全育成事業

##### (YMF S ジュニアヨットスクール葉山の運営)

心身ともに健全な子供たちの育成を支援することを目的に、小・中学生及び高校生を対象としたジュニアヨットスクール葉山を運営しています。

- ジュニアヨットスクール葉山では、セーリング指導に加え、「自然・水辺体験学習」の機会を設けた総合的なプログラムを通じて、海、水辺、海事に関する知識向上と安全啓発を行いました。
- また、より質の高いスクール運営や保護者の理解促進を図るため、本年3月に実施したジュニアヨットスクール葉山修了式と合わせて、保護者懇談会を開催し、スクールの主旨説明や意見交換を行ないました。スクールのカリキュラムや運営を通じて、保護者からは、逞しきや自発性、協調性など子どもたちの意識、行動の変化を実感した旨の意見をいただくなど、子どもたちの成長に寄与した評価を得るなど一定の成果をあげることができました。
- 更に、スクール受講による技能向上の成果確認と次期目標設定を目的に、本年3月に開催した「第21回セーリング・チャレンジカップ・IN 浜名湖」にスクール生8名が参加しました。

##### (全国児童水辺の風景画コンテスト)

心身ともに健全な子どもたちの育成を支援することを目的に、未来を担う子どもたちが積極的に水辺に出かけ発見・体験したことを、子どもらしい素直な表現で自由に描くことを通して感性が育まれ、のびのびと成長するための一助となることを願って、水辺をテーマとした絵画コンテストを開催しています。

- 今年度は、7月2日から10月1日まで作品を募集し、47都道府県の保育園、幼稚園、小学校、絵画教室等755団体から9,097点の作品が寄せられました。
- 10月18日専門家による審査会(予選会)にて、入選作品304点を選出したの続き、10月23日専門家、後援省庁・団体の代表者による審査会(本選会)では、文部科学大臣賞、国土交通大臣賞、環境大臣賞、農林水産大臣賞の各賞や審査員長特別賞を含め、入賞作品34点を決定しました。
- 各大臣賞については、11月から12月に受賞者の在籍校等において表彰式を実施し、入賞作品は当財団ホームページを通じて発表すると共に、ジャパンインターナショナルボートショー2013(パシフィコ横浜)にて展示紹介してきました。

#### (公5) 普及・振興事業

##### (スポーツ教材の提供)

スポーツの普及振興、機会・裾野拡大を通じて、心身ともに健全な子どもたちの育成を支援することを目的に、子どもたちが外で楽しく体を動かすきっかけとして教材を活用することで、スポーツ好きな子どもの増加、体力・運動能力向上に寄与するため、幼稚園、小学校、中学校、ジュニアスポーツクラブ、総合型地域スポーツクラブ等に対し、スポーツ教材を提供しています。

- 今年度は、4月16日から6月8日の間に、ホームページにて公募した結果、47

都道府県858団体から応募があり、6月15日に開催した抽選会を経て、被災地の学校等82団体を含む182団体に、サッカーボール、又はタグラグビーセットを提供しました。

- とりわけ被災地支援については、施設損壊や住民避難、福島第一原発の放射能汚染などの影響により屋外活動制限が継続する中で、子供たちの運動不足による体力低下など教育現場の声や要望を個別に確認しつつ対応に努めました。
- 提供先からは教材の活用報告を受け、工夫してスポーツ教材をより有効活用している事例を、当財団ホームページに掲載するなど、幼少期における運動の大切さを広く社会に啓発してきました。

## (公6) 調査研究・教材製作・競技会等運営事業

### (調査研究への取り組み)

当財団のこれまでの事業経験をもとに、スポーツ振興やスポーツ文化向上にかかる社会的な課題の解決に寄与するため、当財団の特徴を活かし得る分野において、調査研究に取り組んできました。

- 今年度は、「障害者スポーツの現状に関する調査研究委員会」を設置し、今後の展開に向けた基礎調査として、①大学における障害者スポーツの現状に関する調査研究 ②日本障害者スポーツ協会に加盟する競技団体の現状調査を実施しました。
- また、当財団が運営するジュニアヨットスクール葉山の活動をベースに、その教育的効果の確認と活動の振り返りの観点から、外部専門家と連携し「海辺の自然体験活動および海洋教育の教育的効果」に関して、これまでの文献レビューを含め、今後の研究の基礎資料とすべく総説論文をまとめました。
- 上記調査結果については、調査関係者への調査報告書の配布と共に、当財団ホームページを通じて情報開示してきました。

### (YMF Sスポーツ討論会の開催)

スポーツチャレンジ助成対象者(第6期生、第7期生)、奨学生及びOB・OGを対象に、一人ひとりが視野を広く、視点を高く、思考を深くする機会を通じて、レベル向上や意識向上を促進すべく、「語り」「学び」「考える」をテーマとした「スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティング」を3月に開催しています。

- 今年度の第6回スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングでは、「チャレンジの本質」を考える基調講演、「練習の意義」を考えるスポーツ討論会、「あきらめない」「やり抜く」ことの大切さを学ぶ特別講演会を実施し、参加者から好評価を得ることができました。
- また、スポーツにかかわる人たちの取り組みの参考情報として、及び社会のスポーツへの理解促進を図るため、講演会や討論会の概要などを、当財団ホームページ等に掲載し、広く社会に情報発信してきました。

### (YMF Sセーリング・チャレンジカップ・IN 浜名湖の開催)

心身ともに健全な子供たちの育成を支援することを目的に、全国のジュニア・ユース

セイラーが一堂に会し、日頃の練習の成果を披露すると共に、選手や指導者同士の交流を通じて、全体的なレベルアップと技術の向上に資するため、「YMF Sセーリング・チャレンジカップ・IN 浜名湖」を開催しています。

○今年度は、3月22日から25日（4日間）に静岡県立三ヶ日青年の家を会場に、全国から20クラブ78名のジュニア・ユースセーラーと指導者、保護者が参加し、日頃鍛えた技術を競い合うとともに、全国の仲間との交流を深め、また、大会期間中には、GPS航跡データを活用した勉強会や、ロンドンオリンピック470級日本代表の原田龍之介さん、レーザーラジアル級ナショナルチームの原田小夜子さんを招いて勉強会を行うなど、参加者の更なるチャレンジと成長に資するプログラムとして運営しました。

## （公7） 普及広報事業

### （ホームページの充実と刊行物「Do the Challenge」の発行）

当財団の活動をより広く社会に発信し、スポーツ振興やスポーツ文化向上による社会活性に寄与するために、ホームページを通じて情報公開を行うと共に、その充実に努めています。

○具体的には、高い目標に向かって取り組む助成対象者のチャレンジの実像（クローズアップレポートなど）やスポーツチャレンジ賞受賞者の紹介。ジュニアヨットスクール葉山の活動、スポーツ教材の活用事例、水辺の風景画コンテストの実施概要などの子供たちの逞しい活動。スポーツ討論会や講演会の概要、調査研究報告書、各種募集情報などを掲載しました。

○また、スポーツチャレンジ助成事業における、チャレンジャー（助成対象者）、OB・OG、審査委員、事務局を結ぶ会報誌として、「Do the Challenge」（刊行物 A4・4頁）を計4回（5・8・11・2月）に定期発行し、相互の情報共有と財団活動への理解促進を図りました。